

目 次

まえがき

第 I 部 国際通貨範疇の定立とポンド体制

第 1 章 「利子生み資本・信用論」から国際通貨範疇へ …………… 2

はじめに 2

I マルクス「利子生み資本・信用論」の課題——草稿第 5 章の 5)「信用。架空資本」について 3

補注) 銀行資本家によって媒介された利子生み資本の展開 10

II 諸金融機関と諸金融市場——「一般的分析」を超えた信用制度 14

III 中央銀行と国内決済制度の完成 (プラン後半体系における一分野) 17

IV 「外側に向かったの国家」と国際通貨 23

補章 1) 流通必要貨幣量、再生産表式、信用創造 …………… 32

はじめに 32

I 単純再生産表式論の基本と表式における「貨幣流通」 34

II 預金の創造、収入の流通と資本の流通 46

終わりに 56

第 2 章 外国為替、国際通貨、ポンド体制 …………… 62

はじめに 62

I 船荷証券、逆為替 (為替手形) の利用 64

II 為替の「振替原理」と為替市場、為替相場 66

Ⅲ マーチャント・バンカー、植民地銀行・海外銀行、外国為替銀行	70
Ⅳ 国際通貨とポンド体制（ポンドによる多角的国際決済の進行）	72
Ⅴ 国際的な金融機関の間の外為市場の登場、為替相場、持高調整	76

補章 2) 両大戦間期のポンドとドル	81
Ⅰ 1920年代の金本位制の復帰をめぐる米英の角逐	82
Ⅱ 1936年「通貨協定」に至る角逐と協定の「先駆性」	85

第Ⅱ部 ドル体制

第3章 ドル体制の前史としてのIMF体制	94
----------------------	----

はじめに	94
Ⅰ イギリスの為替管理とポンドの地位の低下	94
Ⅱ 持高調整と為替媒介通貨としてのドルの登場	97
Ⅲ アメリカ国際収支と金流出	101
Ⅳ ユーロダラー市場の成長	104
まとめ	109

第4章 基軸通貨ドルと国際信用連鎖（1971～1997年）	112
-------------------------------	-----

——ドル体制の論理と体系（1）

はじめに	112
Ⅰ IMF体制とドル体制の異同	113
Ⅱ 為替媒介通貨の展開と基軸通貨	115
Ⅲ 1970年代のドル体制下における国際信用連鎖	122
Ⅳ 1980年代におけるドル体制の後退	127
Ⅴ 1990年代の国際信用連鎖	133

Ⅵ 経常黒字国のドル建資産の累積、ドル体制の「非対称的」性格——まとめて代えて	137
---	-----

第5章 対米ファイナンス（1998～2018年）とドル体制の総括的把握 …… 141

——ドル体制の論理と体系（2）

はじめに	141
Ⅰ 今世紀に入って以後のドル信用連鎖	142
Ⅱ 世界の貿易における「2通貨・3地域モデル」と米の対外債務と債権の「概念」的区分	155
Ⅲ ドル体制の総括的把握——いくつかの理論問題	165

第6章 対米ファイナンスにおける日本と中国の差異 …… 178

はじめに	178
Ⅰ 日本の対米ファイナンスとドル体制支持	178
補論）西ドイツの「間接」的な対米ファイナンスとECへの短期投資	186
Ⅱ 中国の対米ファイナンス	188

第7章 ドル体制下の日本と中国 …… 195

はじめに	195
Ⅰ 日本のワシントン・コンセンサスに対するスタンス、AMF構想、円の国際化構想	196
Ⅱ 人民元の国際化と「一帯一路」	208
まとめて代えて——15年以降の人民元と「一帯一路」構想	219

補章3）経常収支、金融収支とマネーストック …… 224

はじめに	224
Ⅰ 日本の経常収支黒字とマネーストック	224
Ⅱ 中国等のドル建・経常黒字保有国のマネーストック	230

Ⅲ	アメリカの経常赤字とマネーストック	231
Ⅳ	途上国の経常赤字とマネーストック	234

第Ⅲ部 ユーロ体制

第8章 ユーロ体制の成立とその基本的性格 …… 240

はじめに	240
Ⅰ	1980年代～90年代におけるマルクの基軸通貨化 241
Ⅱ	ユーロ体制の成立 246
Ⅲ	ユーロシステムとTARGET、TARGRT Balancesの形成 252
Ⅳ	南欧危機とユーロ体制の基本的性格 257
まとめに代えて——南欧危機とユーロ体制の現実	265

第9章 ユーロシステムの国債等購入政策 (PSPP) について …… 272

はじめに	272
Ⅰ	ユーロシステムによる「公的部門買入プログラム」(PSPP) の 実施 273
Ⅱ	PSPPの全ユーロ地域の金融状況への波及——PSPPのユーロ地域 全体における「効果」 280
Ⅲ	PSPPとドイツ、イタリア、スペインの銀行の貸出、物価上昇 への影響 285
まとめ	291

第10章 ユーロ地域の国際収支とドイツの国際収支について …… 296

——欧州におけるドイツの比重の高まり、および対米ファイナンス

はじめに	296
Ⅰ	ユーロ地域全体の域外・国際収支とユーロ各国の国際収支 297

II	ユーロ地域全体の国際収支の国・地域区分	304
III	ドイツの国際収支	314
	まとめ	333
結 章	現代国際通貨体制の今後	338
I	現代国際通貨体制——ドル体制とユーロ体制の「併存」	338
II	最近の中国の動向とドル体制	341
III	産油国の動向とドル体制	346
人名索引		351
事項索引		352